

広告

株価変動時代を生き抜く企業

米国の信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題に端を発する金融危機の影響がいつまで続くのか、日本の株式市場は断崖を許さない。だが、多くの銘柄が株価を大きく下げたいまこそ、株式投資のチャンスともいえる。今後はこれまで以上に社会的責任投資（SRI）が注目を集めると話す、ソフィアバンク副代表の藤沢久美氏に、SRIの意義を聞いた。

SRIの考え方は欧米よりむしろ日本が原点

SRIとは一般的には、株主としての権利を使って企業の社会的責任（CSR）に配慮した経営を企業に求めていくものであり、さまざまなアプローチがあります。利益を生み税金を支払うことも社会貢献でありSRIとする考え方もありますが、SRIの究極の姿は、社会にインベシジョンをもたらす企業への投資であると考えられています。例えば環境、医療、健康など日本が直面する問題に対して資本を投入し、日本の新しいありようを築いていくような企業への投資です。稼ぎ出した利益の一部を本業とは違った分野に投入して社会貢献するのでもいいですが、本業それ自体が社会の問題の解決

企業選別にはまず社長の生の声をヒントに

SRIの対象となるような企業は、身近なところにも少なくありません。例えば、食の安全が脅かされている昨今、いつでも安心して買える物ができるスーパーマーケットなども候補になりうるでしょう。最近では情報システムのバグの発見から電気製品の設計ミスや食品の不良品の発見などへと事業を展開させている企業もあります。また、食を扱う企業のなかには、より安心・安全な原材料を確保すべく農業の再生を目標に事業のすそ野を広げている企業もあります。これらは一例に過ぎませんが、普段から少し注意しておけば、SRIの対象にふさわしい企業を探すのはそれほど難しいことではありません。例えば街を歩いている時やドキュメンタリー番組などで、ちょっとおしゃべりなフリップや上質な製品を見つけたとすれば、実際に自分で買ったと使ってみる。自分が気に入ったものがほかの人にも人気があるだろうか。日本だけではない、アジアや欧米ではどうかなど、想像力を膨らませて考えてみる。さらに、その企業のホームページにアクセスして、詳しく調べる。その際、最も重要なのは経営者の生の声を聞くことです。ホームページには経営者のメッセージがあるでしょう。また経済紙などのインタビューを通じて、どのような企業理念を語っているのか、CSRに対してどのような考え方を持っているかなどを知ることです。その企業の本来の姿が浮き彫りになるはずです。情報開示に消極的であったり、将来の業績に不安のある企業をふるいにかければ、応援しなくなるような企業を探すのは、それほど時間はかかりません。

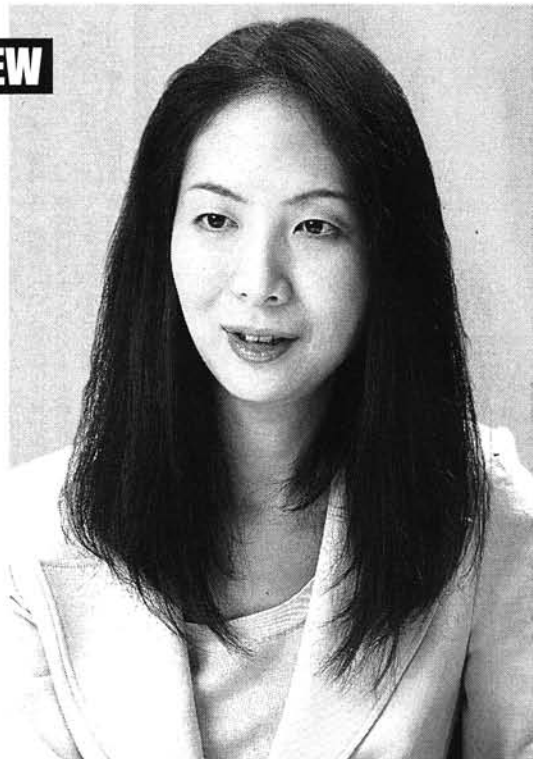
注目を集めるSRI投資とは？

本業が社会を変える企業への投資

INTERVIEW

シンクタンクソフィアバンク副代表

藤沢 久美氏



長期保有が企業や社会を変える力になる

SRIにあたっては、長期保有が望ましいといえます。というのも、SRIとは、その企業の応援を通じて社会を変えていくことに本来的な意義があるためです。少なくとも五年から十年、理想をいえば数十年単位で保有して、株主としての立場を発揮してその企業に影響力を行使することで、社会を変える一助になるといえます。もちろん、株価は毎日変動しますから、今後の動向によっては購入価格を下回る局面となる可能性もあります。その際資金に余裕があれば、いわゆるナンピン買いをして平均購入価格を下げてもいいでしょう。その余裕がない場合でも、要は含み損を抱えても、我慢をして持ち続けることができるだけの企業。育成する、応援することの気持ちを持ち続けることのできる企業を選んでおけば、慌てる必要はありません。日本の株式市場は今後は



らうの間、米国の金融危機の影響が尾を引き断崖を許さない状況が続きます。しかし、国際的な優良企業までが、解散価値ともいわれる株価純資産倍率（PBR）が一倍を切る水準にまで下がるのは、いかにも異常であり、逆にいえば絶好の購入局面といえます。すでに緊急経済対策が打ち出され、日本経済は患者に例えると緊急処置を終えて、あとは多少のリハビリが必要ない状況です。もともと欧米に比べれば株価は軽いのですから、そう遠くない日に退院できるはずです。より多くの投資家がSRIを意識するようになれば、企業や社会を変える力になっていきます。その意味からも、企業には社会に対してどのような役割を果たしていくのか、明確なビジョンを発信して、投資家向け広報（IR）の一層の強化に努め、投資家にアピールしてもらいたいものです。